

各種報告

福知山線脱線事故 献花行動

JR連合は、4月25日、福知山線事故献花行動を行い、貨物鉄産労からは辻村書記長が献花を行いました。あらためて事故によりお亡くなりの方々に、心よりご冥福をお祈りするとともに、お身体や心に大きな傷を負われ、今なお苦しんでおられる多くの皆様に対し、一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

私たちは、一歩間違えばこのような重大事故をお越しかねない業務に日々ついています。貨物会社としても、あのような事故は決して起こさないと、安全への取り組みを強化していますが、残念ながら、大幅な速度超過や脱線事故、虚偽隠蔽や保安装置独断扱い等、大きな事象が起きており、昨年12月には、千早操車場構内において死亡労災が起きてしまいました。ダイヤ改正から1ヶ月以上が経過し、作業も慣れる時期です。福知山線列車事故・石勝線列車火災事故・東海道線列車後退事故のような重大事故を二度と起こさないよう、職場における安全の確保が、鉄道全体の安全確立につながるという認識に立ち、重大労災や大きな事象が、今なお起きています。実態に危機感を持ち、特に3H「初めて・久しぶり・変更」の作業には特段の注意を払い、日々の業務を行ってください。すべてのJR関係労働者の死傷事故重大労災ゼロは最大の目標です。



荻山委員長

献花行動前に、大阪市内において、JR西労組主催「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」に参加しました。始めに参加者全員で黙祷をし、続いて、主催者代表JR西労組荻山委員長、JR連合松岡会長と順にご挨拶を頂戴し、続いて、大原記念労働科学研究所・所長酒井一博氏による基調講演「鉄道安全考動2022の実践と安全の確立への期待」を聞きまし。次に、JR西労組上村書記長より、「JR西日本グループ『鉄道安全考動計画2022』への我々の関わりについて」を述べられ、続いて、宮野政策・調査部長より、「JR西労組組合員の安全意識」について、グラフ化した資料をもとに説明されました。最後に集いアピールを採択し、上村書記長による閉会の挨拶にて、集いは閉会しました。尚、「安全を誓う集い」の前にJR連合第4回安全対策会議を行い、最近起きた事象や労災を取り上げ、今後の安全対策について話し合いを行いました。

国土交通省鉄道局とJR連合による意見交換会

4月23日、国交省において、鉄道局とJR連合による意見交換会が行われ、貨物鉄産労からは大杉委員長と吉永中執が出席しました。冒頭、JR連合荻山政策委員長より、鉄道サービス政策兼企画内海室長へ「鉄道に關わる諸課題の要請書」を手渡し、その際、税制特例の御礼、自然災害での公的支援等を要請しました。内海室長からは、鉄道特性である正確性や、エネルギーに優しい社会基盤を形成し、高速鉄道、地域ネットワークを維持していく、安心安全の鉄道を求めていくと挨拶されました。

政策勉強会では、吉永中執が、「2030年北海道新幹線札幌延伸に伴う青函共用走行について」と「建設中の東京貨物ターミナル駅構内の物流施設、東京レールゲート」の2点について要望しました。まず、青函共用走行については、北海道東から、札幌・旭川方面に運ばれる鉄道貨物輸送（主に農産物）はマイナスの収支となっており、札幌・旭川方面に運ばれる利益で、マイナス部分を補填し、収支はゼロという状況であります。JR貨物としては、北海道農産物経済・雇用に貢献出来ていないと考えていますが、青函共用走行に際し、これ以上の負担を抱えることは、会社にとって大変厳しいものであります。現在、北海道新幹線の2倍以上の貨物列車が走行していますが、北海道新幹線札幌延伸時に「北海道の人流は良くなったが、物流が陸の孤島とならぬよう」、整備新幹線に伴う事柄として、国の施



策を明らかにして頂きたい。2点目の東京レールゲート物流施設については、2020年ウエスト、2022年イーストが完成予定となっています。JR貨物は、鉄道事業では利益幅が薄く、不動産業にも注力し、それが、北海道東等の赤字路線運営にも寄与します。モータールフト推進の観点からも、東京レールゲートの物効法適用をお願いし、また、陸・海・空が近い高立地条件であり、環境・トラックドライバードに対応出来ることを含め、他省庁からも税制優遇措置できるような要望しました。また、平成42年以降の貨物調整財源についても質問し、議論してきました。鉄道局からは、青函共用走行については、物流も大切にしたい。財政課題があるが、安全と新幹線走行に關して、慎重に検討していくと述べられました。勉強会終了後、全国会議員に「交通重点政策2018年〜2019年」を配布し、JR連合の政策に理解を求め、終了しました。

「支え合い」は「ささえ愛」。 仲間みんなで守り合いたい。

交運共済は、JRやJR関連企業で働く仲間を守る相互扶助の共済です。厚生労働省の認可を得て事業を行い、組合員とご家族の安心と生活をサポート。慶弔見舞金制度の総合共済から、火災、地震風水害、交通災害、生命、入院、マイカー、自賠責、総合医療と共済事業を展開し、幅広い保障体制を整えています。



みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合

第89回中央メーデー参加報告

4月28日、東京渋谷区代々木公園で開かれた89回目となる連合のメーデー中央大会には、連合の発表で約4万人が集まり、「働く者のための働き方改革」などをスローガンのもと、JR連合・他単組組合員とともに、貨物鉄道産労からは関東地区本部・南関東ロジ組合員が参加しました。大会実行委員長連合神津会長は、「春季生活闘争は、底上げの成果が出ている。この流れをさらに広げ、すべての働くものの処遇改善につなげよう」「働き方改革」について、長時間労働是正、同一労働同一賃金に魂を入れるのは、私たち労働組合だ。しかし、労働組合組織率は17%、日本の働く仲間の8割は、労働組合の傘に守られていない。労使交渉で言いたいことを言う機会のない仲間たちに、しっかりアピールし、働く仲間を増やし、働く仲間を守ろう」「主役はすべての働くもの一人ひとりと。一人ひとりが声をあげることが底上げにつながる」と訴え、会場の参加者とともにプラカードを掲げ「ポトムアップ！」と声をあげました。

来賓挨拶では政府代表加藤厚生労働大臣より「政府は、国民誰もが活躍できる社会に向け、取り組んでいる。めざす方向は連合のみなさんと同じである」と挨拶をし、小池都知事からは「都民が生き生きと輝いて生活できるように大改革を行う」「長時間労働が美德といわれる時代は終わった。労働環境を変えるワーク・ライフ・バランスの取り組みの先頭に立つ」「2020東京オリンピック・パラリンピックを成功させるため、連合のみなさんとしっかり連携していきたい」挨拶されました。今年、政労幹部の来賓挨拶を行うが、会場のレイアウトも、これまで労組や政党の幹部が座っていた前

方のひな壇をなくし、挨拶をする人がその都度、会場の中心部に設営されたステージに全員が立つて参加する形に変更しました。集会では、若者を代表して法政大学4年生の本田翼さんによる集会アピール、被災地からは、福島県で活動するNPO法人大波代表より報告があり「長時間労働の是正や同一労働同一賃金の法制化に向けて雇用の安定と質の向上などに全力で取り組む」とするメーデー宣言(案)を採択しました。最後に、参加者全員で「団結がんばろう」三唱をし、中央式典を終りました。中央式典会場の代々木公園内には、NPO、NGO、加盟産別の出店や、被災地復興支援の物産販売も行われる中、参加者はメーデーの意義を認識しながら帰路に着きました。



連合静岡地域協議会

メーデー2018

4月22日、連合・静岡地域協議会主催によるメーデーが静岡市清水区清水マリノパークで開催されました。メインスローガンである「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう!」働く者のための働き方改革をすすめ、すべての仲間と終結しよう、と開会しました。晴天の絶好のメーデー日よりの中、約5000人の参加があり、岩崎連合静岡地域協議会より開会の挨拶、連合静岡の原健二副会長より現在開催されている国会の中で働き方改革関連法案が提出され、この中の労働時間上限規制とワークライフバランス、一定の条件を整えば割増賃金を支払わなくても良い制度、長時間労働を行われる高度プロフェッショナル制度の削除を求めて対応していかなければならないと述べ、働くことに関してもう一度考え私達、家族、子供達を働き続けていけるような環境づくりをしていきたいと、挨拶がありました。引き続き、田辺信宏静岡市長、榛葉賀津也堀池秘書、各県議会議員、各市議会議員の挨拶と、労働金庫役員、メッセージの紹介披露を受けてメーデー宣言とメーデー特別決議を全員で採択を行いました。その後は、恒例の労協まつり2018、子供達の中では有名な「怪盗戦隊ルパンレンジャーVS警察隊パトレンジャー」ショー&握手会、豪華景品が当たる抽選会で大いに盛り上がりました。

第89回メーデー大分県

中央大会

4月28日(土)午前10時から若草公園で開催されました。爽やかな晴天の中、多くの労働者その家族が集まり式典が開始され、JR連合大分県協九州労組の仲間とともに貨物鉄道産労大分支部も参加しました。

スローガン 平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう!働く者のための働き方改革をすすめ、すべての仲間と結集しよう!を採択し式典が進められ最後に団結ガンパロー三唱し閉会されました。

本部代表者会議を開催

4月21日、本部事務所において、第3回代表者会議を開催しました。2月9日第2回拡大代表者会議からの経過報告をし、2018春闘総括・東労組の動き、組織課題・政策課題・死亡労災義援金カンパ取り組み・夏季手当要求・新人事賃金制度・今後の取り組み等について話し合いを行いました。特に新人事賃金制度については、来年4月から導入予定ばかりが先行され、未だに会社から何の説明や提案が無いのは無責任であり、給与管理システム変更を考慮すれば、今年中には整理しなければ間に合わないのでは?とすれば、議論する時間は半年程度しかなく、「満足な議論が出来るのか不安を感じている」「会社の思うように押し切られないか」「今年度60歳を迎える人は、辞めるか続けるか悩んでいる方もいる」「退職金はどうなるのか」等の意見が出され、組合員の不安を払拭するために、本部として早急に提案するよう会社に訴えていくこととします。

「今後の予定」

- ・5月10日 JR連合安全シンポジウム・広島
- ・5月26日〜28日 青年女性委員会ユースラリー 高松
- ・6月11日〜12日 JR連合第27回定期大会・都内
- ・6月12日 第4回中央執行委員会 本部

人生を渡っていくには、しっかりした橋が必要です。

長い人生には、病気、交通事故、火災、地震...など、何が待っているかわかりません。安心できる暮らしの「架け橋」として交運共済が頼りになります。営利を追求しないぶん、少ない掛金で大きな保障が得られるのが大きな特徴。しっかりワイドにガードする、交運共済をお役立てください。



みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸業労働者共済生活協同組合